

生育診断ほ調査結果と今後の管理

令和8(2026)年6月25日

芳賀農業振興事務所

- ・水管理 : 今後も間断かん水を継続しましょう
- ・防除 : イネカメムシの発生に注意しましょう
- ・生育概況 : 【コシヒカリ】草丈は高く、茎数は少ない
(前年比) 【とちぎの星】草丈は低く、茎数は多い

1 現在の生育状況

【水稻生育診断ほ調査結果】調査日: 6/22、品種(施肥): コシヒカリ(全量基肥)
〃 : とちぎの星(側条施肥)

調査地点	品種	移植日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢	葉色 (葉色板)	生育診断値 (葉色×茎数)
芳賀町 東水沼	コシヒカリ	5/5	55	408	10.9	4.2	1,715
			103%	88%	+0.5	±0	88%
真岡市 清水	とちぎの星	5/9	45.6	689	9.4	4.2	2,893
			88%	127%	-0.2	+0.2	135%

※下段は前年比及び前年差

【コシヒカリ】

- ・草丈: 前年よりやや高い
- ・茎数: 前年より少ない
- ・葉齢: 前年と比べて0.5枚多い
- ・葉色: 前年同様

【とちぎの星】

- ・草丈: 前年より低い
- ・茎数: 前年より多い
- ・葉齢: 前年と比べて0.2枚少ない
- ・葉色: 前年よりやや濃い

2 今後の管理

(1) 水管理

① 間断かん水未実施ほ場

→ 1株茎数を確認して、間断かん水を開始しましょう。

② すでに間断かん水を実施しているほ場

→ このまま間断かん水を継続しましょう。

間断かん水開始のタイミング

栽植密度	1株茎数
50株/坪	20本
60株/坪	16本
70株/坪	14本

(2) イネカメムシ及びその他斑点米カメムシ対策

- ・イネカメムシは、斑点米カメムシ類の一種で、稲の出穂期頃の加害で不稔を、乳熟期頃の加害で斑点米を生じさせる被害の大きな害虫です。今後の発生を予測するために行った越冬調査(R8年2月)では、芳賀郡全市町で発見されており、被害が懸念されます。

【薬剤防除】

- ①不稔防止のためには、出穂期※1に液剤を散布します。
- ②斑点米防止のためには、乳熟期（出穂期7～10日後頃）に液剤を散布します。
その後も発生が認められる場合には、追加防除を実施します。



イネカメムシ（成虫）

【除草】

- ①水稻の出穂2～3週間前と出穂期頃の2回除草を行います。
- ②水田畦畔、農道、休耕田等のイネ科雑草を結実させないように管理します。

※1【参考 令和7年管内生育診断基本調査における出穂期】
早植コシヒカリ：7月28日 早植とちぎの星：7月31日



図1 斑点米カメムシ類防除のイメージ

3 気象の経過

R8 真岡 アメダスデータ

期間	日平均気温(℃)			積算降水量(mm)			積算日照時間(時間)		
	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
6/9～ 6/21	20.7	20.6	+0.2	102.5	68.6	149%	62.1	54.3	114%

- ・平均気温は、平年より 0.2℃高かった
- ・積算降水量は、平年比 149%と多かった
- ・積算日照時間は、平年比 114%と多かった

7月～8月は「農作業中の熱中症による死亡事故」が集中します。

夏の農作業で、以下のことに気をつけましょう。



- ・日中の気温の高い時間帯の作業は控えましょう。
- ・こまめな休息、水分補給を行いましょ。
- ・体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断しましょ。